

鳥 取 神 青 通 信

第 16 号

発行元
鳥取県神道青年会
編 集
若 草 会

御 挨 拶

鳥取県神道青年会

会長 池 本 靖



先ず以ちまして、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお祈り申し上げます。また神宮におかれましても諸祭恙無く斎行されておられますこと、慶賀に存じます。

平成十九年七月に当会会長の重任を仰せつかってより、早いもので二年間の任期を終えることが出来ました。振り返ってみますと、会員の皆様に何一つとして残すものが無かったと反省ばかりです。その反面、私本人に於いては数多くの事柄又、想いを頂戴させてもらった

と皮肉な結果となつてしまつた様に感じております。

六月に主管県として開催致しました、『第四十二回中国地区氏青神青合同研修会』では、約一年前に実行委員会を立ち上げ、毎回深夜までおよぶ話し合いの中、一層の信頼関係が築けたのではないかと思います。そして主題を、「伝える」と掲げ、多くの視点で追求して来た事は、各々の自己研鑽となつた事でしよう。他県の会報より引用させて頂きますが、「伝統」とは「前代までの当事者がして来た事

を後継者が自覚と誇りをもって受け継ぐ所のもの（新明解国語辞典）なのだと思います。神社で年々に繰り返されるお祭りは、例えば時代に応じて新しい形が取り入れられたとしても、奉仕する神職や氏子の方々の自覚と誇りによつて伝えられている限りは伝統となり、逆に古来の様式を全く変えず守つたとしても、私たちが無自覚に右から左へ型通りに伝えるだけでは伝統たりえず、いつしか失われてしまうのかもしれない。今後私も自覚と誇りを持ち、会の歴史が本当の伝統となるべく邁進して行く所存でございます。関係各位のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



第 42 回中国地区氏子青年・神道青年合同研修会 於ホテルモナーク鳥取

【就任御挨拶】

鳥取県神道青年会

会長 大澤 祥之

鳥取市

鳥取大神宮 榎宜

昭和四十八年

七月二十四日生



本年は、
天皇陛下
御即位二
十年、天
皇皇后兩

陛下御成婚五十周年の佳節の年にあたり、ここに奉祝の誠を捧げると共に、聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。そして、神道青年全国協議会は創立六十周年の還暦の齢を重ね、鳥取県神道青年会は今期創立四十五周年の節目を迎えます。このような良き年に会長を務めさせて頂きます事は、身に余る光栄と感じております。先輩方が築いてこ

れた長く輝かしい歴史と伝統を振り返るとき、その重責を痛感せずにはおれません。歴代会長よりそのバトンを受け継いだ今、改めて青年神職の担うべき役割や意義を自覚しつつ、微力ながら精一杯努力し、個性あふれる役員理事また会員皆様のお力をいただきながら、この大任を実践躬行全力で邁進致したいと存じます。

近年、神青協中央研修会や氏青神青合同研修会を先輩各位のご指導、ご芳志を賜りながら、会員一同が若い力と情熱をかたむけ成功裏におさめました事は、本会に於いても皆様に於いても大変な成長であり自信になったことと感じております。また女性会員は格段に増え、愈々頼もしく着実に底力をつけているよう思います。本会の活動を通じて我々は、先を見定めつつ、己がスキルを身に付けながら、先輩の足跡をよくよく学び、継承していかなくては

はなりません。そして、鳥取県という最も小さい県にあり、天職である神職の道を兼務する田舎の神主さんである私たちは、欺界の根底を支える「集落の氏神さま」を護持している自覚とプライドを胸に、青年らしく大胆な発想と実行力、熱い血潮のままに今こそ惟神の道を歩む同志として、一致団結して明るく楽しく実直に進んでまいろうではありませんか！

今後とも叱咤激励は元より、皆様のご指導ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

各単位会の活動

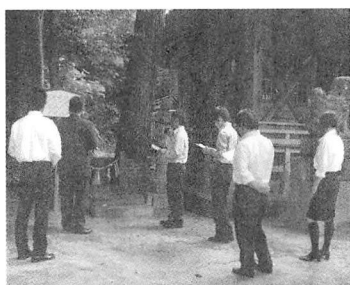
〈東部若輩会〉

若輩会は、昭和三十八年発足以来、その意思を確かに受け継ぐよう更なる自己研鑽と神社奉仕等の活動に

取り組んでおります。

新年度体制の第一回目の活動として、七月二十五日（土）に夏季研修会を開催致しました。例年は泊を伴ふ研修会ですが、この度はより多くの参加者を募りたいとの思ひから、半日研修として若輩会員それぞれの奉務神社を巡っての社頭講話研修会を行いました。

まずは、倉田八幡宮にて鳥取県神社廳庁長でも在らせられる永江則英宮司様に社頭講話及び現若輩会に期する思い等の御話をいただき、引き続き、岩美郡御湯神社・鳥取市白兎神社・立見神社などを巡り、奉務す



社頭講話の様子

る会員自らの講話によって神社のご祭神や御縁、地域との在り方等に触れました。移動車中での会話や研修後の懇親会で互いの話も膨まりました。こうした相互理解が因幡一円のお社の発展につながるとの実感を強く持ちました。研修会場は、各地区持ち回り代へていくことが慣例であり、毎回工夫した取り組みを考え実践していきたいと思っております。

また、鳥取県護国神社の年二回の例大祭では、毎年、当日の祭典奉仕・衣紋着付・祭典準備の奉仕を行っております。前日の夕祭準備や衣紋講習会も含め、諸先輩方の一挙手一挙動や直接のご指導に、我々若手神職は大変有意義な実践経験の場をいただいております。

我々自身が清く正しい神明奉仕の姿勢をそれぞれの地域において確実に体現していくことが将来の地域づ

二月二十二日、中部青年神職会で神楽研修会を開催しました。当会OBの船上神社池田宏一宮司を講師に招き、胴、太鼓を中心に学びました。祭祀で用いられる楽について、鳥取県は東部、中部、西部でそれぞれ曲調が異なり笛の種類も違うという特色があります。また、同じ中部の中にあっても三つの分会でそれぞれ相違点があり、他分会の楽に戸惑

くり、人づくりにつながります。こうした意識の輪を膨らませるよう若輩会は活動しております。(永江)

〈中部青年神職会〉



永江宮司様の御話

うこともしばしばです。

会員の中には楽が得意な者から普段はバチも持たない者もおり、今回の研修では胴、太鼓の基本をご教授いただきました。聞いて学び、実際にやってみる、の繰り返しの中で、人の楽を聞いて自分ではできるように思っても、バチがうまく振れなかったりしてジレンマを感じました。普段神楽をする者はそれなりに、初めてバチを持った者は何となく収穫があつたところで半日研修が終了となりました。この半日で胴、太鼓ができるようになったわけではなく、講師先生からはこれからの精進が大切であると



神楽研修会(1)

のお言葉を頂戴しました。会員全員がどんな場面でも楽を合わせることができるよう「聴いて、見て、やってみて」今後も研鑽に努めていきたいと思っています。(後藤)

〈西部青年神職会〉



神楽研修会(2)

去る平成二十一年六月二十八日(日)日野郡日野町の滝山神社にて境内及び参道の清掃奉仕活動をさせて頂きました。当会では毎年三月、滝山神社宮司様、総代様、講師先生のご協力のもと滝山神社竜王滝にて視研修会を行っております。このたびは毎年研修会場としてお世話になっている神

社に對しお礼の気持ちを含めてこの清掃奉仕活動を計画しました。会員とその子弟、家族総勢二十四名が参加、およそ一キロメートルはあろうかという長い参道、境内の清掃に臨みました。大人も子供も各々ほうきや熊手を手にもつと私語をつつしみ一生懸命にとりかかっているのが大変印象的でありました。男性陣は滝つぼ掘りに苦闘。以前は腰まであつたという水深も砂が溜まり今では二十〜三十センチほどに。これを少しでも元に戻そうと砂をかき出す作業を。たしかに相当の砂が溜まっているようにかき出してもかき出しても掘り下げることは容易ではありません。元の深さにはいきませんでした。が、大分深く掘ることができました。参加者皆があまりに夢中になり、終了予定時間を大幅に超えてしまうほど。その分、清掃を終えた時の清々しさといえはすばらし

いものがありました。滝山神社の大神様にも喜んでいただけたのではないかと思います。大人も子供も力を合わせ成し終えたこの度の清掃奉仕活動は大変好評でした。(東海)

へおくやみ▽

横山 景昭氏
昭和四十年六月二十五日生まれ。鳥取市福部町海士五九一。明階三級。服部神社禰宜。平成二十一年四月十日亡くなられました。心よりご冥福をお祈りします。

〈結婚おめでとう!〉

岸本航氏(昭和五十四年十月三十一日生まれ。鳥取市賀露町南六丁目一三三。正階三級。)立見神社禰宜。平成二十一年九月二十二日挙式。御結婚おめでとうござい

● 新入会員紹介 ●

氏 名 小田 成範 おだ しげのり
住 所 岩美郡岩美町岩井
奉務神社 御湯神社



私は、大学在学中に階位を取得し、昨年より神職として奉仕するようになりましたが、これまでも正月の手伝い（主に相伝楽）や春祭りでの獅子舞や神輿への参加など、神社のおまつりには深く関わってきました。将来は氏子の皆さん、とりわけ年配の方々に信頼される神職になりたいと思っております。そのために先輩方のご指導を真摯に受け止め、また研修会にも積極的に参加していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

氏 名 戸坂 正哉 といた まさや
住 所 鳥取市気高町睦逢
奉務神社 新宮神社



私は、一昨年度神職の資格を取り、現在は小学校の教師をしながら、新宮神社に禰宜として奉務しております。まだまだ、分からないことが多く、勉強ばかりの日ですが、先輩神職の皆様いろいろなと教えていただきながら、成長していきたいと思っております。これから、若輩会の活動に出来るだけ参加していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

氏 名 吉田 南月 よしだ なつき
住 所 倉吉市葵町
奉務神社 賀茂神社



私は、昨年まで京都の賀茂御祖神社でご奉仕させていただきました。全国の賀茂社の御本社でご奉仕させていただく中で、改めて神道の歴史の深さ、伝統を護り伝えてゆくことの大切さを学び、それは氏子地域の方々をはじめ、全国の賀茂社、崇敬者の方々の信仰によって成り立っているのだと実感いたしました。これから私たちがこの地方の神社神道の歴史・伝統を伝えてゆくために、地域の方々とのつながりをより一層強くし、皆様とともに護り伝えてゆきたいと思えます。

氏 名 門脇 大輔 かどわき だいすけ
住 所 米子市上福原
奉務神社 諏訪神社



私は國學院大學の講習会で資格を取得しました。現在は奉務神社等の各種祭典の助勤を務めています。とくに講習会の際の実習をそのまま生かすべく、祭式の厳修に務めていきたいと考えています。神職として奉仕することは、どのお祭りひとつとっても大変な時間と労力を必要とすることを痛感しています。今後は研修会に積極的に参加して、自己研鑽を積みたいとも考えています。よろしくお願いいたします。

編集後記

私が若輩会の事務局を担当して早二年が経過し、県神青通信の発行が最後の務めとなります。この一年を振り返って見ますと、何といっても六月に行われた五年に一度の中国地区氏青・神青合同研修会に向けて、県内若手神職仲間と共に一致団結し、実行委員会に取り組んだ期間としての印象が強く残っています。時には深夜まで審議し帰宅することもありましたが、多くの出席者から賞賛の声を頂き、成功に終わったことを大変うれしく思います。また近年は多数の新会員も加わり、将来に向けていい経験、親睦の機会になったことと思います。まとめとして皆さんが地域の氏子さんに親しみ、親しまれる神職を目指して研鑽をし、自信と誇りを持って今後の神社活動に取り組まれることを期待しております。

(飯田)